

2 0 2 6 年 度

(令和8年度)

事業計画

学校法人 京都橘学園

2026 年度事業計画

学校法人京都橘学園は、2023 年度に開始した第 3 次マスタープランにおいて、学園の本来的な強みを再認識し、これまでに築き上げてきた学園の評価を強固にするとともに、新たな価値の創出にむけた基盤を構築することをめざしています。

第 3 次マスタープランは、事業期間を 2023 年度から 2027 年度までの 5 年間と定め、成長の方向性となる中長期的な戦略目標、定量的到達目標および重点課題で構成しています。また、これらのほかに各部門における課題や定量的な達成指標を定め、第 3 次マスタープランと連携し、実行していきます。

第 3 次マスタープランの事業目的は「学びで世界を変える」とし、既成概念にとらわれない、時代に先駆けた各種改革を実行し、「よりよい学びや経験を提供し、学生・生徒・園児等が触れる世界を変える」「これまでにない新たな価値を提供し、人々が住む世界をよりよい世界に変える」ことをめざします。中期的な戦略目標は、情報教育研究および遠隔教育の充実、医工連携の強化、教育の創造の 3 つを掲げ、定量目標は、大学における通学課程学生数規模 8,000 人、通信教育課程学生数規模 2,000 人を中核としています。

重点課題は、工学系研究科を起点とした AI 時代の社会課題改善促進、メディア／アート・通信教育を起点とした新たな展開・地域創造、医工連携の強化と人々の健康促進・地域社会医療への貢献、新たな教育保育の提案、総合的国際政策の実行、組織・文化の構築・醸成の 6 つの領域とし、それぞれ 2023 年度から実行しています。

2026 年度は、新たに開設されるデジタルメディア学科・ロボティクス学科・臨床工学科の教育研究を着実に推進します。また、国際英語学部、情報工学研究科修士課程の名称変更、工学部建築デザイン学科の収容定員増、および工学研究科博士後期課程の 2027 年度開設に向けた諸準備を進めます。

京都橘中学校・高等学校においては、2023 年度から 1 学年 90 人・3 クラス体制で中学校募集を実施しており、その入学生が高校へ内部進学します。安定した学校運営を維持するためにも、さらなる生徒数の増加を図りつつ、今後も「自立」・「共生」の教学理念のもと、夢に向かって挑戦する生徒を支える学校教育をめざします。

たちばな大路こども園においては、開園 8 年目を終え、草津市の中でも入園希望が高い園として認知されるようになってきています。今後も、「自立」・「共生」の教育・保育理念のもと、心身とも健やかな子どもの成長を支える教育・保育をめざします。

1. 京都橘大学

(1) 教育活動の推進

- ・教育力の強化および学習意欲の向上と学習環境の充実をめざし、各種取り組みを継続的に実施するとともに、学内に蓄積された多様な情報を分析し、改善を図っていきます。また、2025 年度から開始した新たな共通教育を効果的に運用し、本学の教学理念に掲げる「自立・共生・臨床の知」を兼ね備えた人材育成をめざします。
- ・文学部においては、2025 年度から新カリキュラムの運用を開始しており、さらに充実した体験型学習プログラムを推進することで、社会に貢献できる教養および専門性を備えた人材育成をめざします。特に日本語日本文学科では、新たに開設した「国際日本文化コース」において、グローバルな視点から日本の伝統文化や、アニメ・マンガ・ゲームなどのサブカルチャーの価値を探究します。
- ・国際英語学部においては、2026 年度から 2 専攻制へ改組し、グローバルスタディーズ専攻では留学を中核とした教育を、国際共生専攻では学内での国際交流や実践的教育を通じた国際力・語学運用能力の育成を進め、学部全体の魅力向上を図ります。なお、2025 年度までに入学した学生については、完成年度後のカリキュラムを継続し、海外留学の安全管理確認のもと、2 回生前期から SAP を実施し、帰国後の学びの充実を進めます。
- ・国際センターにおいては、通学課程における留学生受け入れ促進に向けた方針に基づき、留学生広報を展開するとともに、留学生カリキュラムにおける学修支援体制の強化を進めることで、教育活動の質的向上をめざします。

- ・発達教育学部においては、児童教育学科と教職保育職支援センターとの連携を強化し、全国トップレベルの質の高い教職・保育職の養成をめざすとともに、公立幼稚園教諭、公立保育士および公立小学校教諭の合格率向上をめざします。
- ・総合心理学部総合心理学科においては、完成年度後の新たなカリキュラムに向け、その準備を進めていきます。データサイエンスに関する基礎教育をより充実させるとともに、心理学の研究法の基礎を確実に身につけられるよう、新カリキュラムにスムーズに移行できる教育体制の整備を進めていきます。
- ・経済学部においては、2026 年度に設置される「現代社会専攻」の開講 1 年目の開講および 2 年目に向けた準備を進めます。特に現代社会専攻においては、2 回生配当科目の当専攻の目玉として「フィールド探求」科目が開講されます。この準備を 2026 年度を通じて着実に進めます。加えて、学部全体の魅力創出のため臨地研修や PBL などのプログラムを引き続き実行します。
- ・経営学部においては、新たに設置されたスポーツ経営学専攻の 2 年目の開講を進めつつ、学部と一体となり、連携先企業の開拓を推進します。経営学専攻においてもアントレプレナーシップ教育プログラムや PBL、海外研修などの独自プログラムによって学部の魅力創出をめざします。
- ・工学部においては、既存の両学科における新たなカリキュラムによる学科運営を進めつつ、建築デザイン学科では、2026 年度改革を具体的に実行します。情報工学科では、引き続き多様な PBL プログラムの開講と海外も含めた臨地研修により学生が社会とその課題に目を向け、自らの学びと接続できるよう取り組みます。加えて、新設されるロボティクス学科については、1 年目の着実な開講とともに初年度より PBL に取り組み、学科の魅力の向上をめざします。
- ・同じくデジタルメディア学部デジタルメディア学科については、1 年目の着実な開講とともに初年度より PBL に取り組み、学科の魅力の向上をめざします。
- ・看護学部においては、DX 教材の活用を積極的に行いながらシミュレーション教育を推進します。今年度からは、たちばなチーム医療科目群として、IPW 総合演習Ⅰがすでに稼働しており、その成果を踏まえつつ、IPW 総合演習Ⅱの内容検討具体化を進めます。また、計画的な機器更新を進めることと併せて、時代に即した教育内容と教育手法を備えた、魅力ある学びを創出します。
- ・健康科学部においては、リカレント教育の充実、計画的な機器更新、OSCE や DX 技術を活用した多様な教育手法の検討・活用を進めています。
今年度からは IPW 総合演習Ⅰがすでに稼働しており、その成果を踏まえつつ、IPW 総合演習Ⅱの内容検討具体化を進めます。たちばなチーム医療科目群全体の改善を図り、時代に即した教育内容と教育手法による魅力ある学びの創出に取り組みます。
さらに、今年度開設の健康科学部臨床工学科については、初年度の教育が円滑に進行するよう、着実に実行します。
- ・総合心理学科通信教育課程においては、国家資格である公認心理師の取得をめざす学生を支援しつつ、社会人が仕事や家庭、地域活動などの場面で広く活用できる心理学の知識とスキルが身につく教育課程を展開します。
2026 年 4 月開設のデジタルメディア学科通信教育課程においては、効果的な学生募集広報を行い、入学者の獲得を図るとともに、教育研究を着実に推進します。
- ・大学院においては、2026 年度に情報学研究科情報学専攻に建築デザイン学コースを開設します。一期生の学習支援をしっかりと進め、学外コンペへの積極的参加を促し、高度人材の養成につなげます。引き続き情報工学、建築デザイン学両コースの学内推薦制度による入学者確保を学部と一体となって取り組みます。2027 年度に情報学研究科を工学研究科に名称変更するとともに博士後期課程の設置を予定しています。入学者確保とともに質の高い高度人材の養成につなげる準備を進めます。
看護学研究科においては、より専門的な臨床看護学や実践を行える看護師の育成をめざし、改革を検討していきます。
健康科学研究科においては、持続的な発展を進めていけるよう、将来を見据えた計画的な教員体制の構築を進め

ます。

(2) 研究活動の推進

- ・基盤的研究費である個人研究費・学内研究助成制度の運用並びに科研費等の競争的資金の獲得に積極的に取り組み、基盤的研究費および競争的資金両面からの研究支援を行います。
- ・本学の教学理念や学問・研究分野の特徴を活かし設定した4つの重点研究分野（「医療と情報技術・データサイエンス」、「持続可能な共生社会」、「こころとからだ」、「女性の歴史を学び、女性の未来を考える」）のもとに研究ユニットを設置し、各ユニットにおいて専門分野が異なる本学研究者が分野横断的な視点からの研究シーズの探索を行い、学部・学科を越えた学際的共同研究を推進します。
- ・総合学術推進機構のもと、女性歴史文化研究所、生命健康科学研究センター、情報学教育研究センターは、各々の設置趣旨に基づき研究教育活動を推進し、研究成果を還元します。
- ・大学院工学研究科工学専攻博士後期課程の開設に向けて、地域を巻き込んだ健康・行動情報収集・活用による情報教育研究の推進を行います。
- ・本学のすべての研究者が能力を発揮できるよう研究環境を整え、公正な研究活動を行うために必要な研究倫理教育の実施や、研究不正防止、研究インテグリティのための取り組みを行います。
- ・オープンサイエンスの動向を注視し、研究データマネジメントや機関リポジトリを含むオープンアクセス等の課題に各部門と連携し適切に対応します。
- ・研究機関として必要な安全保障輸出管理を各部門と連携し適切に対応します。
- ・企業、他研究機関、京都市、京都府および滋賀県などの自治体との産学官連携による学部学科の特色を生かした研究活動を推進し、研究成果を還元します。
- ・研究推進・研究支援のための組織の整備及び施策の検討を行います。

(3) 学生支援活動の推進

- ・強化クラブ（サッカー部、女子バレーボール部（インドア、ビーチ）、弓道部（男・女）、陸上競技女子短距離部門及び吹奏楽部）においては、各クラブが自ら設定した活動目標（リーグ戦、コンクールにおける成績など）を達成できるよう練習環境の整備充実など重点的に支援します。
- ・スポーツ振興センターの取り組みとして、教学部門など他部局との連携をはかりつつ、競技と学習の両立（デュアルキャリア形成）、リーダーシップや豊かな人間性の涵養など、競技力向上だけでなく全方位的な学生の成長支援を一層進め、スポーツを通じた大学の地域貢献にも取り組みます。
- ・一般のクラブ・サークル活動においても、集団で活動する経験を通じて、社会生活で必要な力を獲得できるよう活動支援を行うとともに、学園HPや課外活動紹介パンフレットなどを通じて、社会や受験生に対する積極的な情報発信を行います。
- ・学生への経済支援においては、国の「高等教育の修学支援新制度」を適切に運用するとともに、これと連動した本学独自の奨学金制度の活用・充実をはかります。
- ・学生健康支援・相談センターでは、学生の心身の健康増進に関する実態把握、課題研究、企画立案等の包括的な取り組みを推進します。
- ・学生の心とからだの健康支援については、学生健康支援・相談センターやサポートリンクス（障害学生支援室）と各学部のアドバイザーやアカデミックセンターなどの教学部門との連携を強化して学習支援と連動しつつ包括的に取り組みます。
- ・社会に貢献することができる学生の育成に向けて、正課内外における学生の自主的活動を支援し、主体性を育てます。

(4) 就職支援活動の推進

- ・多様な学生の個性を生かし、挑戦的に進路先候補を広げられるよう、学内セミナー参加企業の拡充をはかるとともに、学部学科のキャリア対策と連携して低回生からの学生のセミナー参加を促進します。
- ・キャリアガイダンス、各種講座やセミナー、個人面談を通して、学生一人ひとりに就活実践力がつくよう丁寧に支援するとともに、筆記試験対策についても強化します。
- ・低回生からの就業意識醸成と社会人基礎力の育成をめざし、社会や仕事の現場との関わりの中で学生の意欲や主体性がより発揮されるインターンシップへの参加を積極的に支援します。
- ・U・I ターン就職協定を締結する自治体との関係強化を一層進め、地方企業に対し本学の存在を周知する取り組みを進めるとともに、東京・首都圏での企業開拓、就職支援を推進します。
- ・チャレンジ意欲の高い学生の就活支援を充実させるため、公益財団法人経済同友会との事業連携を継続し、正課と連携しつつ、経済同友会が実施するインターンシップへの参加を促進します。
- ・医療系学科と事務局が連携し、国家試験合格率 100%に向けた国家試験対策を行います。
- ・キャリアセンターと関連する学部・学科が連携し、行政職・公安職・専門職への進路意識向上・就職支援の取り組みを拡充するとともに、人文・社会科学系学科の公務員試験支援対策を強化します。

(5) 地域連携の推進

- ・地域連携センターを中心として、地域のコミュニティを活性化するために「陶灯路」や「こども食堂」などを近隣自治体や地元の商業施設等との連携によって行い、本学の教育研究とも関わる取り組みを展開します。
- ・加えて「たちばなサイエンスデー」など地域のニーズに応える取り組みを行います。

(6) 学生募集および広報活動の推進

- ・京都の私立総合大学としてのブランドイメージを確立するとともに、本学らしさを強調した広報を展開します。また大学の動きをニュースとして積極的に配信するとともに、ステークホルダーの興味や関心、共感を引き出す広報をめざします。
- ・学生募集活動においては、2025 年度入試の状況を分析し、実志願者増と確実な入学者数確保のための入試制度改革を行います。
- ・大学と各学部学科のブランド力向上のために学生募集広報を行います。
- ・2026 年 4 月開設の新学部新学科の学生募集広報、特に他大学との競争が激しくなっているデジタルメディア学部、工学部の募集広報を重点課題とし、志願者・入学者確保を図ります。

(7) キャンパス整備の推進

- ・マスタープランに基づく事業展開に向け、教学・研究活動を支えるキャンパス設計を進めるとともに、学生・生徒の学修意欲を高め、学園ブランドの向上につながるキャンパス計画を推進します。2026 年度においては、中学校・高等学校の特別教室棟の建設工事、既存施設・設備の改修・更新、隣地取得による敷地余力の確保等を実施します。

(8) 総合大学を支えるステークホルダー拡充

- ・私立大学の発展にとって最も身近で継続的な支援者は卒業生組織であるため、今や卒業生数 30,000 人に達した卒業生をあらためて結集し、その規模にふさわしい同窓会政策を計画します。
- ・大学の卒業生だけでなく、中学校・高等学校の卒業生や父母組織との連携を深め、学園全体のステークホルダーとの結びつきを強める取り組みを検討します。
- ・2025 年度に新たに整備した父母・交友支援組織の取り組みを強化し、連携を充実させます。

2. 京都橘中学校・高等学校

(1) 文武不岐の学校づくりと社会に貢献する人材の育成

- ・文武不岐の学校として、生徒が学業とクラブ活動の双方に主体的に取り組める環境を整えます。学習指導・進路指導を計画的に行い、夢に向かって挑戦する生徒を支えることで、進学実績の向上とクラブ活動の活性化を図ります。
- ・生徒指導部を中心に規範意識の向上を図り、落ち着いた校風を継承・発展させます。地域からの生徒指導要望への適切な対応や生徒憲章の浸透などを通して、安心・安全な学校づくりを進めます。
- ・学校カウンセラーの複数配置、学校医等による定期検診、保健室環境の整備、人権教育研修会の実施などにより、生徒の心身両面での安心・安全を確保し、満足度の高い学校生活の実現をめざします。
- ・ホームルーム指導の充実を図るため担任力の向上に努めるとともに、授業アンケートの実施・分析や授業見学、各種教育研究セミナーへの参加、校内研修の充実などを通して、教員の教育力および進路指導力の向上を図ります。また、教員研修推進チームによる研修活動を年間スケジュールに位置づけ、学校全体で教員のチーム力の向上を図ります。

(2) 進学実績で生徒募集域でのトップ50に入る高校の実現

- ・通常授業の充実を図るとともに、ASTM (After School Tachibana Method) の取り組みをさらに発展させ、学力向上と進学実績の向上を図ります。
- ・補習講座の実施や自習環境の整備を進め、「学力保障・進路保障」の観点から基礎学力の定着と自学自習力の向上を図ります。あわせて、中学入学段階から学習習慣を確立するための仕組みを整備します。
- ・生徒一人ひとりの理想の未来に向けた進路目標の実現のため、キャリアデザインの設計から基礎学力・応用力の養成、志望校対策までをきめ細かく支援します。
- ・思考力・判断力・表現力を重視する大学入試に対応するため、対策講座の実施や入試情報を提供する各種ガイダンス、保護者対象説明会を引き続き実施します。
- ・模試分析会を実施し、最新の模試データを活用した進路指導や、分析結果に基づくタイムリーな学力向上施策を行います。
- ・特進系クラスの学力向上に加え、すべての生徒の学力向上を図り、公募推薦・一般入試における合格者数増加をめざします。私立大学クラスでは京都橘大学への内部推薦および指定校推薦を積極的に活用し、進学実績の向上を図ります。
- ・京都橘大学への内部進学者数の安定的な増加をめざし、京都橘大学との高大連携授業の充実を図るとともに、語学研修・海外研修や他大学との教育連携などを通して、生徒の進路選択の幅を広げます。

(3) 日本一をめざすクラブの育成等

- ・全国大会に出場する機会が多い高等学校の女子バレーボール部、男子サッカー部、陸上競技部、吹奏楽部、太鼓部の5つのクラブについて、日本一をめざした支援を引き続き行います。あわせて、その他のクラブについても活動環境の充実や指導体制の強化を図り、さらなる活性化を図ります。

(4) 募集力の強化と安定的な経営基盤の構築

- ・来校者が安心して参加できるオープンキャンパス、学校説明会や「ドリーム☆スクール」などを企画し、来校者に本校の魅力を直接伝えることで、志願者増を図ります。
- ・塾訪問活動の強化、全教員による中学校訪問の継続、本校および外部会場における大手塾対象説明会の開催の検討、大学附属小学校への訪問活動の継続実施などを通して、塾・学校との連携強化を図り、志願者増につなげます。
- ・ホームページのリニューアルによりデジタルパンフレット（学校案内）との連携を強化するとともに、SNSとホームページを連動させた情報発信の強化や新聞広告などの広報媒体を効果的に活用し、本校の認知度向上を図ります。

ります。

- ・高校においては進学実績を高めるとともに、特別奨学金を適切に運用し、選抜類型への志願者増を図ります。また、中高の特別奨学生制度や中学校の自己推薦型プレミアム入試・適性検査型入試、高等学校の後期入試などを継続して実施します。
- ・中学においては、プレテストおよび入試制度の見直しを行い、志願者増につながる入試制度の充実を図ります。
- ・塾や関連機関からの情報を的確に分析し、生徒募集情勢を迅速に把握して募集戦略に反映させます。
- ・上記の取り組みにより、中高の生徒数約1,350人の学校を維持します。

(5) 伏見桃山の地で安定した学校づくり

- ・現在、教育環境の充実を目的として新校舎の建築を進めています。新校舎は夏に竣工し、第二学期から使用を開始する予定です。これにより、授業、自学習、課外活動など、より充実した教育活動の展開を図ります。
- ・新校舎の建築と並行して、1,400人規模の学校運営を見据え、既存校舎のホームルーム教室増設に向けた改修計画を策定します。

3. たちばな大路こども園

(1) 安定した教育・保育の提供

- ・「自立・共生」の教育・保育理念をもとに、質の高い教育・保育の提供をめざします。
- ・園庭の天然芝、緑あふれる丘の園舎で、園児が自然に触れ、生き生きと過ごせる教育・保育環境を整えます。
- ・日々のコミュニケーションを通じて保護者と連携し、家庭と園が一体となって子どもたちの発達を保障することも園をめざします。

(2) こども園職員の資質能力の向上

- ・園内外でキャリア開発研修を実施し、職員の資質能力の向上をめざします。
- ・こども園職員を外部研修に積極的に参加させ、さらなる資質能力の向上をめざします。
- ・新任者研修や経験者研修の実施を通して、資質能力の向上をめざします。

(3) 地域に応援される園づくり

- ・地域に根ざしたこども園をめざします。子育て支援事業として、未就園児を対象に園庭開放や親子体験教室、一時預かり保育事業の実施、2歳児向けの子育て支援教室を定期開催し、地域密着の子育て支援を実施します。また園児と地域の交流を新たに計画し、園内外に取り組みを発信していきます。

(4) 学園内連携の強化・発展

- ・中学校・高等学校や大学との連携を引き続き強化し、お互いが相互に移動できるような交流の機会を増やしていきます。
- ・大学とは課外活動の連携だけではなく正課授業との連携も行い、双方の学びとなる場を構築します。

4. 学校法人京都橘学園

(1) 学園のブランド力の強化

- ・これまでに確立した学園ブランド価値を、引き続き社会へ発信します。
- ・第3次マスタープランを確実に実行し、その方向性、到達点やプロセスを積極的に社会へ伝え、新たな学園ブランドを構築します。

(2) 総合学園を支えるガバナンス体制整備

- ・2025 年 4 月から改正された私立学校法改正に対応した寄附行為変更をふまえつつ、総合学園として持続的に発展するために、適正かつ安定した経営を実現するガバナンス体制をめざします。
- ・2024 年 4 月に設置したガバナンス事務室によって、内部監査・監事監査の支援を強化し、社会やステークホルダーに対して責任ある理事会・評議員会等の運営を行います。

（３）事務局整備、職員育成の推進

- ・2026 年度は、教学事務部における新学部・新学科の運営体制を具体化し、学術事務部および情報システム部の再編に向けた準備を進めます。一方で、法務・コンプライアンス機能の組織整備、財務部機能（財務室体制）の再整理、中高事務部のマネジメント強化などに取り組みます。また、保育事業について開拓期から安定期への移行を受け、保育事業部を解消し総務部に保育事業室を再編することで安定的な運用をめざします。
- また、事務局体制強化のため、育成を推進するための研修制度を引き続き充実させるとともに、個々の力を組織力量の向上につなげることをめざして職能資格制度に基づく人事評価に取り組みます。

（４）改革を支える学園財政の構築

- ・マスタープランに基づく事業展開に向け、教学・研究活動を支えるキャンパス設計を進めるとともに、学生・生徒の学修意欲を高め、学園ブランドの向上につながるキャンパス計画を推進します。2026 年度においては、中学校・高等学校の特別教室棟の建設工事、既存施設・設備の改修・更新、隣地取得による敷地余力の確保等を実施します。

（５）京都橘中学校・高等学校と京都橘大学との連携強化

- ・学園の総合的な発展のために、中学、高校、大学間の教学連携を強化し、高校から大学への内部進学を質量共に充実させます。
- ・中学、高校、大学を設置する総合学園としての利点を活かし、また、早期に大学の専門分野の学問に接することで各自の興味・関心を明確にし、学習意欲の向上を図り、大学における学びへのスムーズな移行を目的として、中高大連携授業を展開します。2025 年度は文系・理系・医療系の 3 講座で展開しましたが、2026 年度は理系の枠を拡充した 4 講座で展開し、受講者の興味関心に更にコミットした構成とすることで、一層の連携強化を推進します。

（６）たちばな大路こども園と京都橘大学との連携強化

- ・学園事務組織に設置された保育事業室を中心とした関連部局が連携し、学園内外のネットワークを活かしつつ、たちばな大路こども園の教育・保育の質向上に取り組みます。また、地域の保育士・保育教諭のキャリア開発も支援して、社会に貢献します。

（７）ダイバーシティ推進と人権尊重の環境づくり

- ・2025 年度に策定した「学校法人京都橘学園ダイバーシティ推進宣言」に基づき、すべての構成員が互いを尊重し、能力を発揮できる包摂的な環境整備を推進します。
- ・ハラスメント防止研修の実施や相談窓口の周知を図るとともに、カスタマーハラスメント防止措置義務化に向けた体制を整備します。
- ・障害のある教職員への合理的配慮の提供を定着させるとともに、多様な働き方や多様な人材（国籍、性的マイノリティ等）の支援を進めます。

以上